

【総評】

直近は4回連続で合格率が相当高い状態が継続したが、今回は、直近4回より難しかった。特に応用編は難易度がかなり上がり、過去と同じ論点の計算問題でも深く考えなければ正解を導き出せない問題が目立った。前回の合格率は18.75%とかなり高めだったが、今回は、応用編の難化のため前回より相当低くなることが予想される。ただし、標準的な合格率である10%を大きく割りこむことはないと思われる。

【基礎編 総評】

前回（2025年5月試験）よりはやや難しかったが、長期間の過去の傾向から見るとやや易しかったと思われる。特に、計算問題（5問）はすべて易しかった。初見の問題も少々みられたが、全体として50点ではなく54点程度以上が目標得点となる内容といえる。個数問題（適切な文章の数を選ぶ問題）が3問といつもより少なかったのも点数が取りやすかった要因といえる。

【応用編 総評】

直近4回よりもかなり難しかったが、長期間の過去の傾向から見るとやや難しかった程度と思われる。ただし、穴埋め文章問題は全体的に易しい問題が多かった。一方で計算問題は、既出の論点とみせかけてよく考えなければ正解を導き出せない問題が目立った。なお、第3問が法人税ではなく所得税からの出題、第5問が自社株ではなく相続税からの問題であったことも点数が取りづらい要因といえる。

■設例別講評

第1問 ライフプランニングと 資金計画	全体的に易しかった。穴埋め文章問題は健康保険（傷病手当金）・労災保険と障害給付で、全問正解を狙えるレベルだった。計算問題は、オーソドックスな遺族給付の問題で特にひっかけ等もなく、満点を狙いたい内容だった。遺族厚生年金は、300月みなし計算が必要だったことがポイントであった。
第2問 金融資産運用	財務分析の計算は穴埋め問題1問で、久々に配当割引モデルの出題もあったが、全問正解を狙えた。穴埋め文章問題は投資信託の個別元本とパフォーマンス評価の問題で易しい。計算記述問題は標準偏差と相関係数だったが、相関係数は共分散の計算が必要となる初出の超難問であった。
第3問 タックスプランニング	3回ぶりに所得税で給与所得者が退職後に白色申告者として起業した設例。計算記述問題は、退職所得・事業所得・総所得金額で標準的な内容。ただし、総所得金額を間違えると次の問題に影響がある。所得税の計算の表の問題は、配当控除がやや難しく、間違えると芋づる式に間違えてしまう。
第4問 不動産	穴埋め、建蔽率・容積率、譲渡所得の計算といういつもと同じパターン。譲渡所得は、相続空き家の特例等だが、相続人が3人いるため特別控除額が2,000万円となるのがポイント。建蔽率・容積率はセットバックもなく易しい。穴埋め文章問題は建築基準法と固定資産税で1問を除き易しかった。
第5問 相続・事業承継	2回ぶりに相続税の総合問題。小規模宅地の特例、相続税の計算、穴埋めという標準的なパターン。小規模宅地の特例は、2つの貸付事業用宅地等のうち適用する方を選択する初出の問題でよく考えて解く必要があった。相続税額の計算は、2024年以降の相続時精算課税による贈与税額控除をからめた初出の難問だった。

《2025年 9 月 F P 1 級応用編配点予想》

受検者が自己採点を行うときの配点の目安としてご利用ください。

作成者個人の見解のため、いっさい保証はいたしかねます。

なお、実際には合格率調整のために配点調整が入る可能性がありますので、下記とは全く異なったり部分点の扱いに変更が生じることが考えられます。

2025年 9 月応用編 配点予想

2025年 9 月14日現在

作成：梶谷美果

【第 1 問】 (20点)	《問51》	①～⑦各 1 点
	《問52》	①～⑤各 1 点
	《問53》	① 2 点 ② 4 点 ③ 2 点
【第 2 問】 (20点)	《問54》	①②各 1 点 ③ 2 点 ④⑤各 1 点
	《問55》	①②各 2 点、③～⑤各 1 点
	《問56》	① 3 点 ② 4 点
【第 3 問】 (20点)	《問57》	①～③各 1 点 ④⑤各 2 点
	《問58》	① 2 点 ② 2 点 ③ 3 点
	《問59》	①～⑥各 1 点
【第 4 問】 (20点)	《問60》	①～⑥各 1 点
	《問61》	① 3 点 ② 3 点 ③ 2 点
	《問62》	① 3 点 ⑥ 3 点
【第 5 問】 (20点)	《問63》	6 点
	《問64》	① 4 点 ② 3 点
	《問65》	①～⑦各 1 点

(100点満点)